

大阪医科大学附属病院 消化器内視鏡センター

長い歴史に培われた高度な技術と チームワークが地域医療を支える

大阪医科大学附属病院は、昭和5年に大阪高等医学専門学校の附属病院として開設されて以来、現在では病床数1,080床を誇る地域の中核病院に発展しました。

同院では内視鏡検査の歴史も古く、昭和34年に導入後、昭和57年には日本消化器内視鏡学会より消化器内視鏡指導施設に認定されています。平成14年6月には、これまで内科、外科、小児科、放射線科の各科で独立して行われていた内視鏡検査を集約した消化器内視鏡センターを設立しました。センター長を務める梅垣英次先生は、「当センターでは内視鏡検査を施行する医師を登録制とし、検査内容をセンターで一元管理しています。これにより、患者さんに対して安全で質の高い検査や治療を均一に提供できると考えています。また、今秋にはセンターを中央診療棟へ移転する予定で、それに伴いINB(Narrow Band Imaging)システム3台、拡大内視鏡、超音波内視鏡などの最新鋭機器を揃え、より確実な診断に基づいた最先端の治療を行っていきたいと考えています」とお話されました。また梅垣英次先生は、平成15年に発足した近畿内視鏡治療研究会でも代表世話人も務めておられ、地域の医療水準向上のために日々ご尽力されています。

同院ではそれぞれの専門職が高い技術をもつ「優れた医療人」となることを目標としているため、同センターにも専任のコメディカルとして4名の看護師と3名の内視鏡技師(内2名は臨床工学技士)を配置し、看護師は術前・術中の患者ケアを中心に、技師が機器管理や高周波装置の設定、内視鏡治療の介助などを中心に行うなどして、専門分野を生かしたチーム医療を実践しているそうです。

また同センターでは、日本消化器内視鏡学会のガイドラインを遵



病院長：竹中 洋 病床数：1080床
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

【消化器内視鏡センタースタッフ】
センター長：梅垣 英次
副センター長：時岡 聡 医員：3名
センター登録医師：87名
指導医：14名 専門医：34名
看護師：4名
内視鏡技師：3名(うち臨床工学技士2名)
内視鏡洗浄員：3名 受付：1名

【年間内視鏡検査数(平成17年度)】
上部消化管：4,954件
下部消化管：2,371件
EUS：190件 ERCP：331件
内視鏡治療件数：706件(ESD93件、
EMR524件、食道静脈瘤治療：70件、
PEG：19件)
スコープ本数：36本(うち、上部用16本、
下部用9本、胆道用10本、
超音波内視鏡1本)
洗浄器 4台 高周波発生装置 5台
APC 1台

守したスコープの消毒を全症例で実施しており、併せて感染対策の一環として処置具のディスポ製品導入を積極的に実施しています。ディスポ化の経緯について内視鏡技師の阿部真也さんへ伺ったところ、「ディスポ化の最大の目的は、感染リスクを最小限に抑え、患者さんに安全な検査や治療を受けていただくことです。しかしそれ以外にも、リユース製品の場合は洗浄や滅菌にかかる人的コスト、処置具の劣化によるスコープ損傷や使用時の不具合など、様々な問題がありました。これらを踏まえた上で、リユース製品の平均寿命から1回の検査にかかるコストを算出してディスポ製品と比較検討したところ、数年前と比べてコストの面でも大きな差がないことが分かりました」と説明されました。阿部さんによると、同センターではコンピューターを使って物品管理を徹底しているため、コスト算出も比較的容易に行えたそうです。このような日頃の実績が、ディスポ化を推進するに当たって病院経営側を納得させる一因となり、迅速なディスポ化に貢献したそうです。



消化器内視鏡センターのみなさん
(前列中央が梅垣英次先生、前列右側が阿部真也さん)